

Fig. 1

## NT100 vs GM100

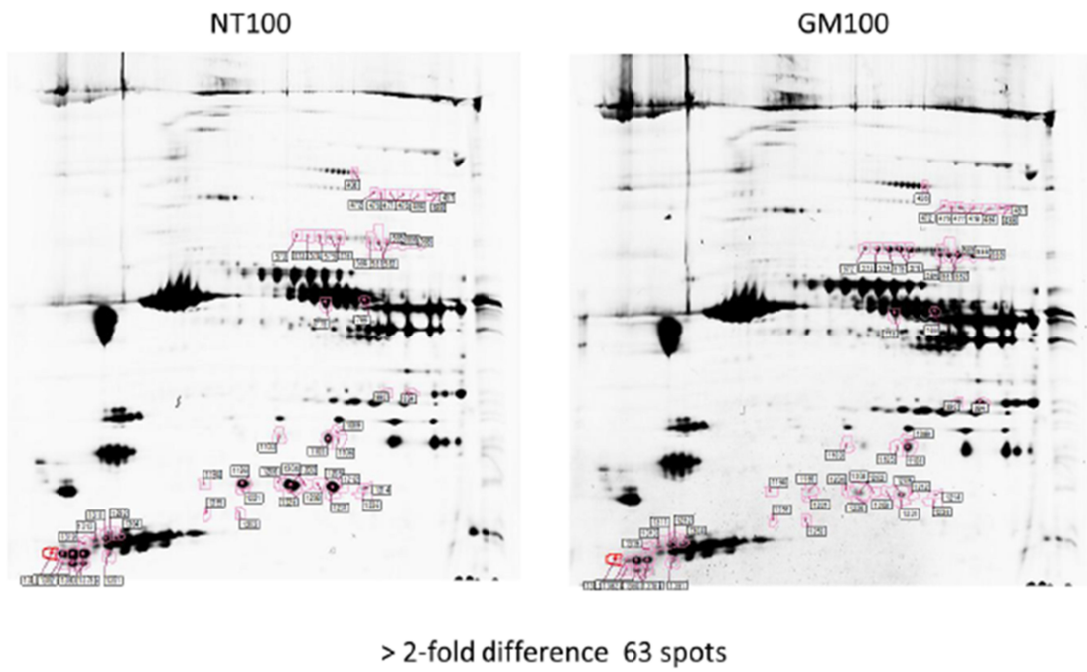


Fig. 2

## NT125 vs GM125

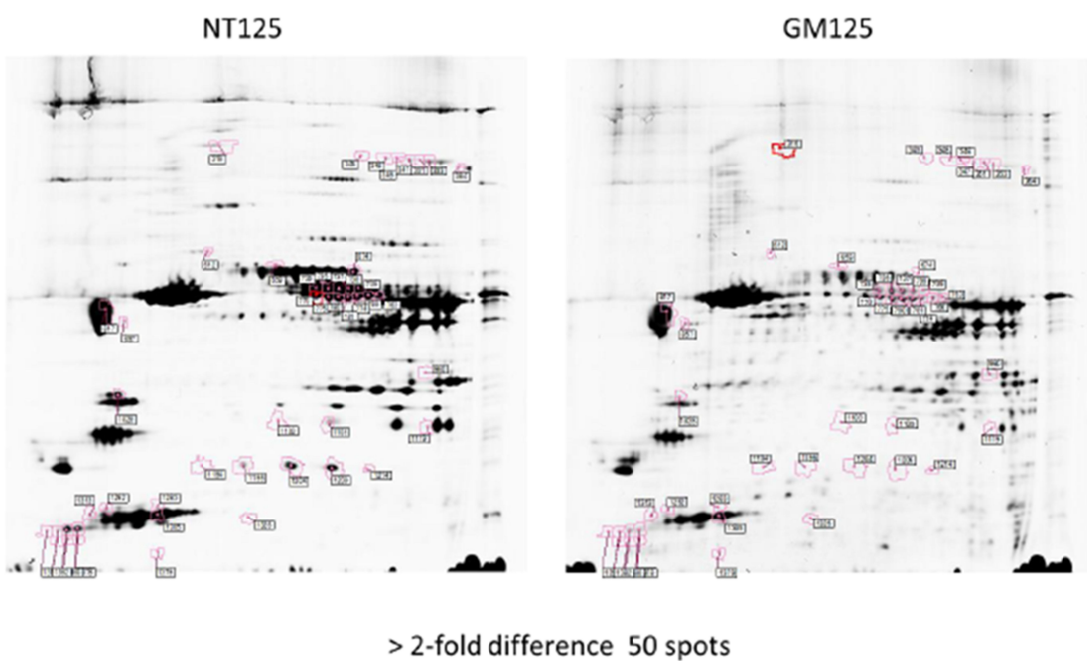


Fig. 3

# NT150 vs GM150

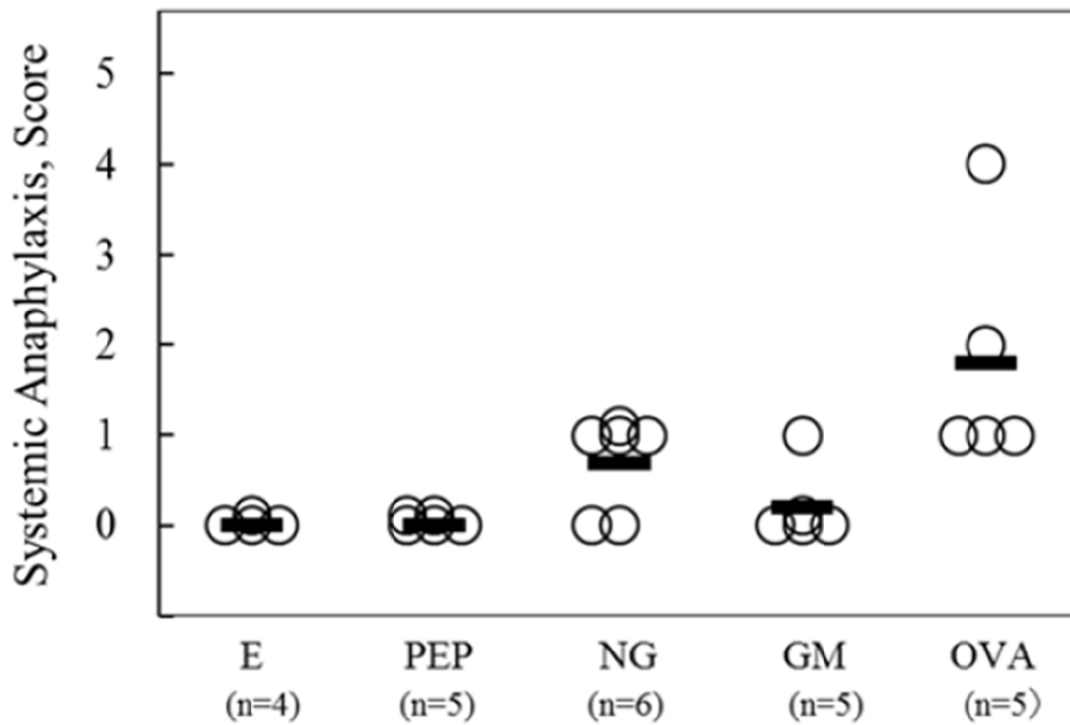
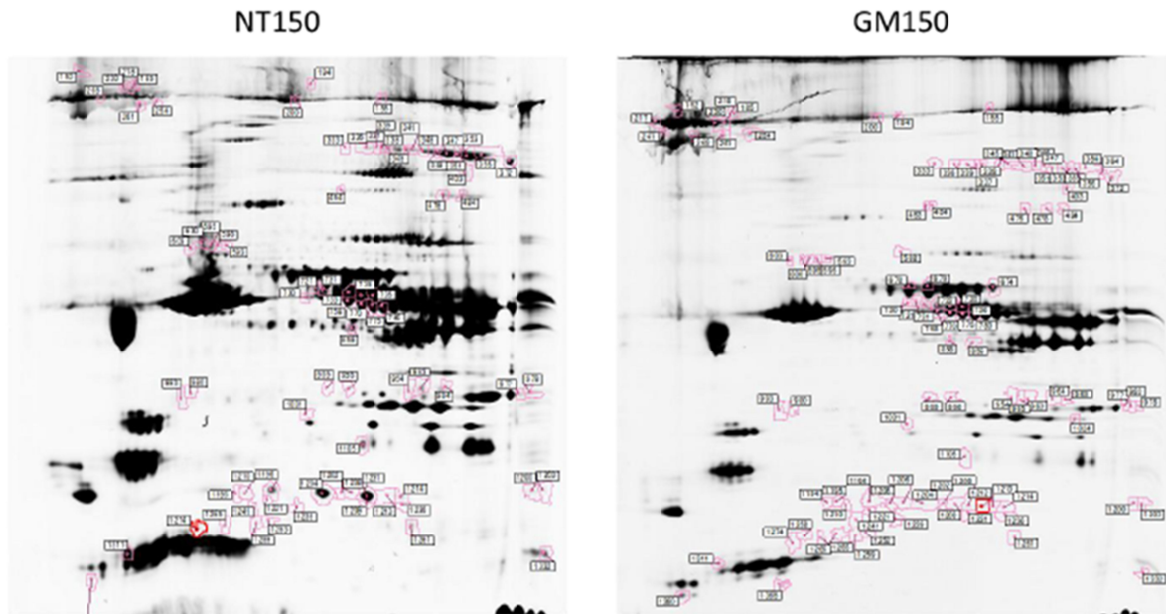


Fig.4 Antigen-induced systemic anaphylactic scores at the 2nd challenge

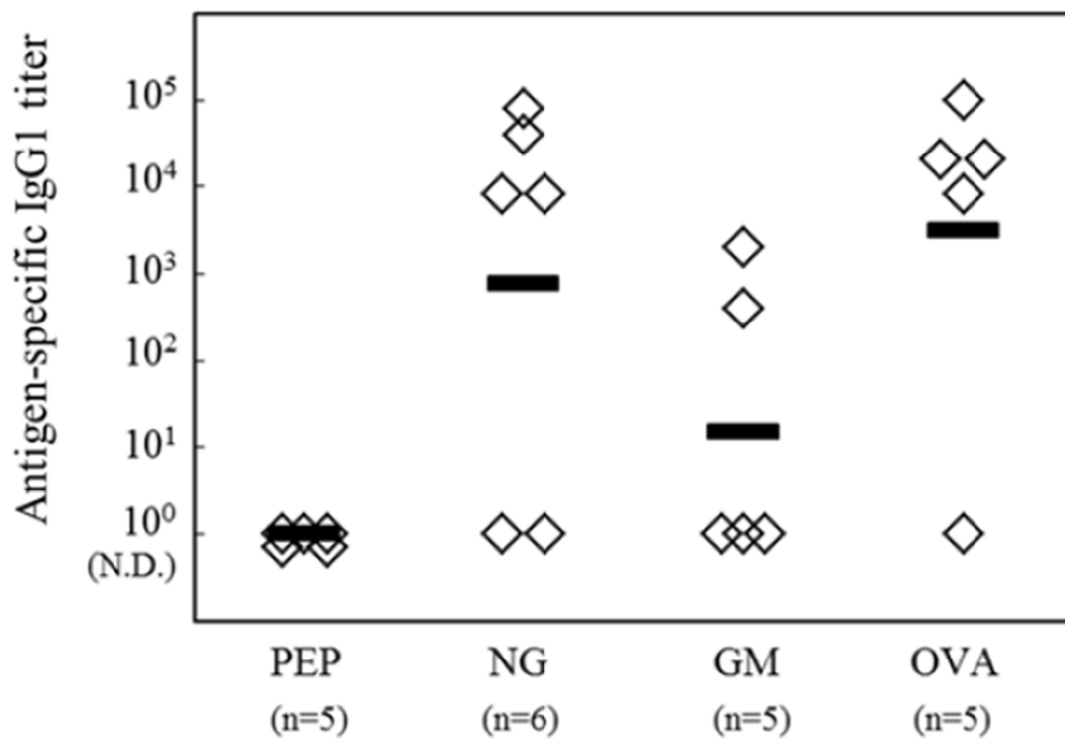


Fig. 5 A comparison of the serum level of Antigen-specific IgG1 Antibody

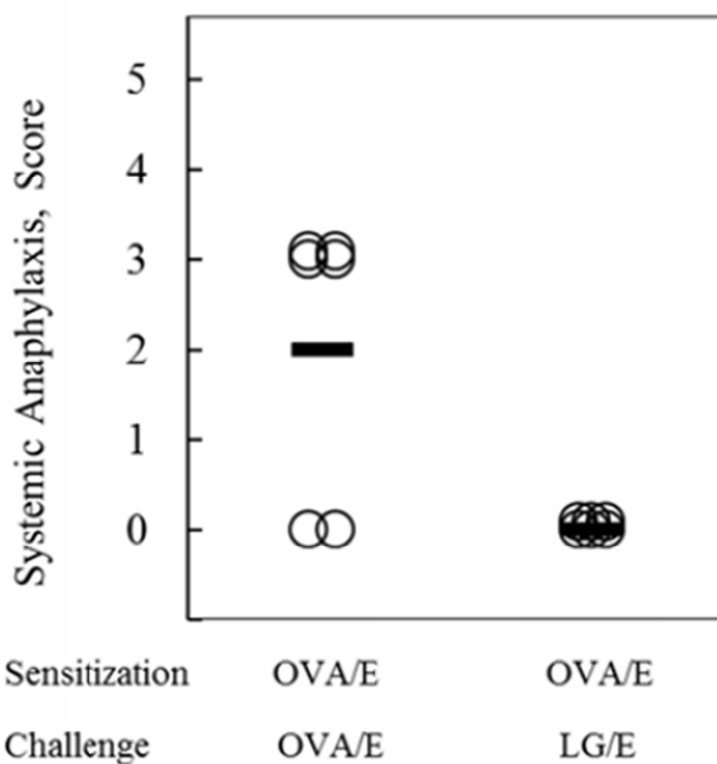


Fig.6 Effects of specificity of protein on protein-induced systemic anaphylactic symptom

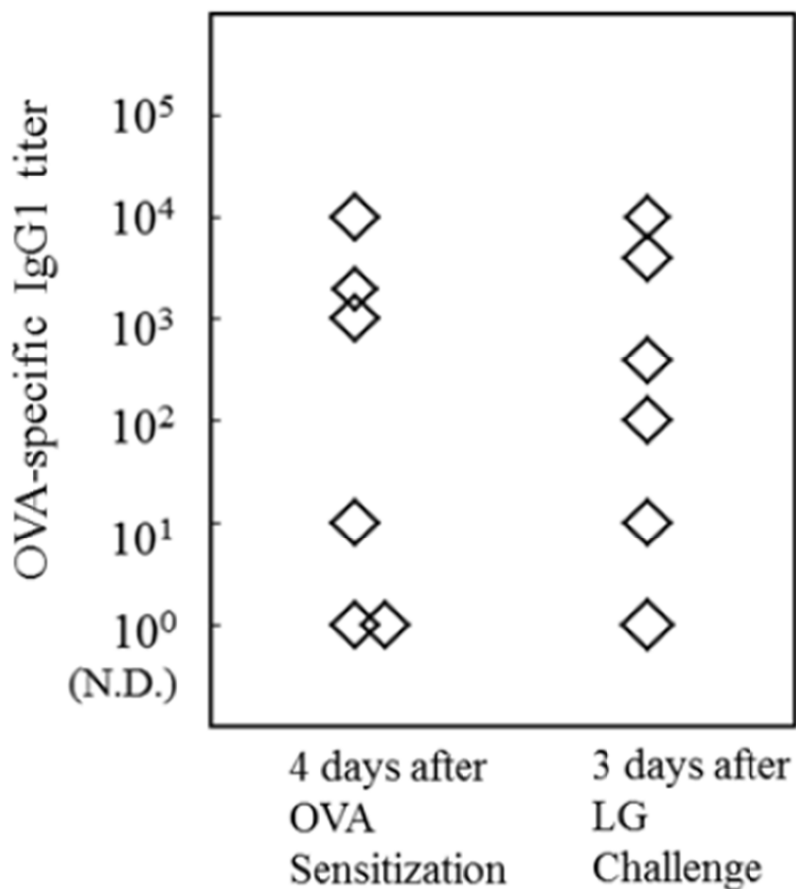


Fig. 7 Change in the serum OVA-specific IgG1 levels

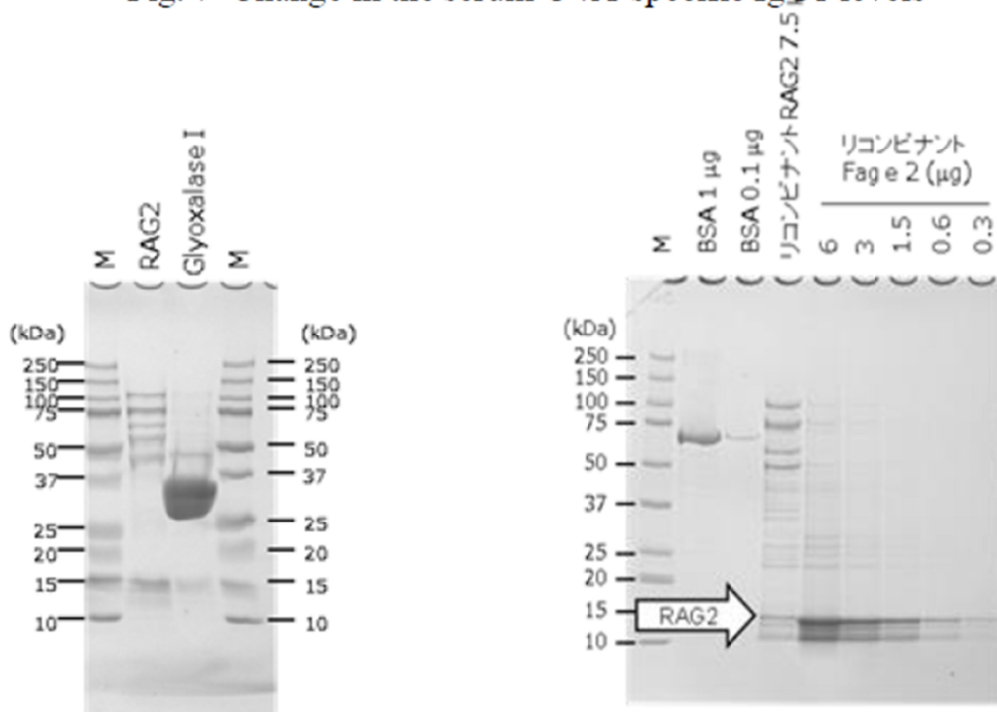


Fig. 8 得られたリコンビナント Glyoxalase Iおよびリコンビナント RAG2のSDS-PAGE後のCBB染色像。レーンMは分子量マーカーを示す。

Fig. 9 SDS-PAGE後のCBB染色像によるリコンビナントRAG2の濃度の推定。BSAおよびリコンビナントFag e 2は濃度既知タンパク質を、矢印は推定されるRAG2の分子量を、レーンMは分子量マーカーを示す。



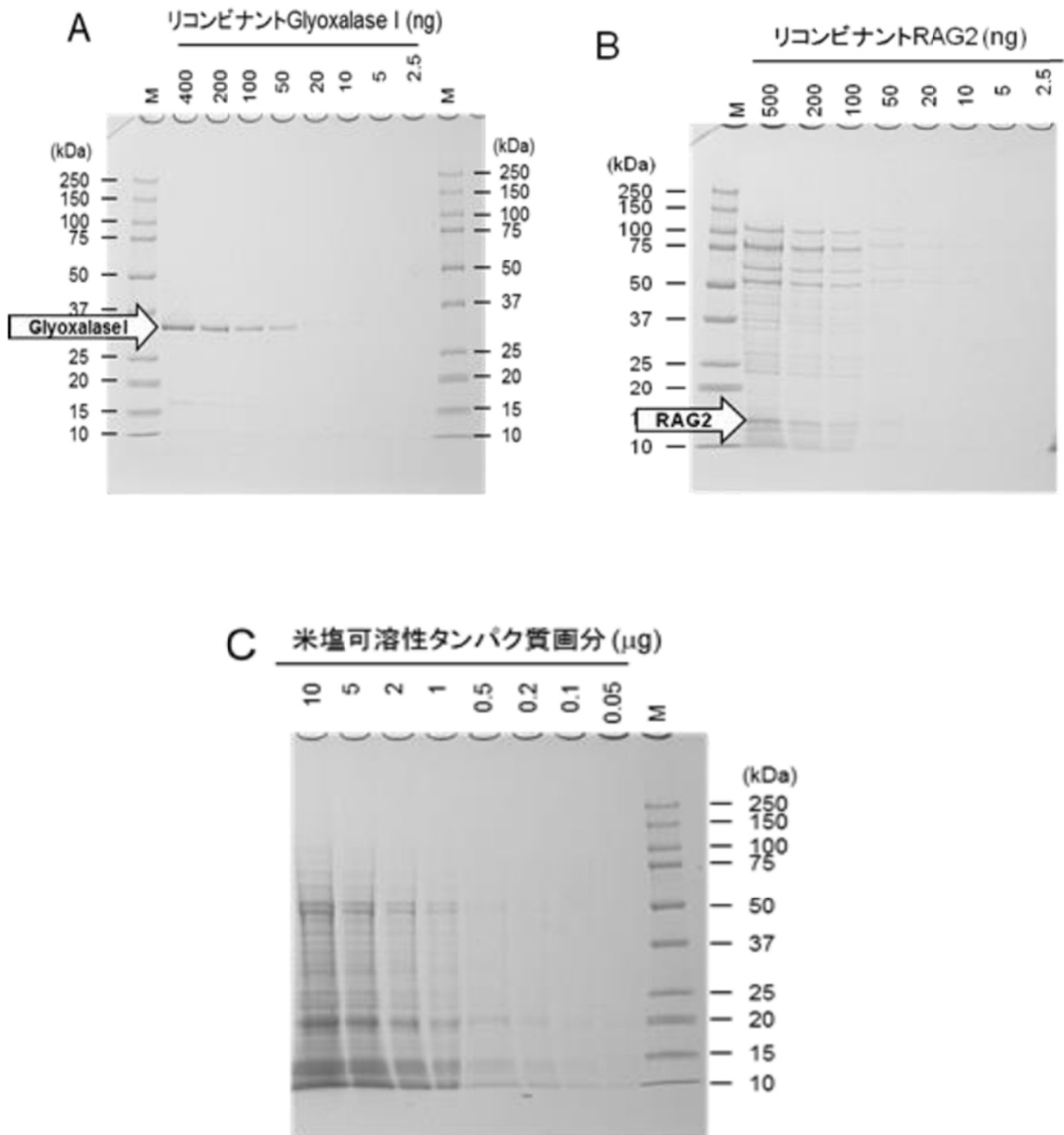


Fig. 10 SDS-PAGE後のCBB染色像。

A: リコンビナントGlyoxalase I、B: リコンビナントRAG2、C: 米塩可溶性タンパク質画分。  
 矢印は推定されるGlyoxalase IあるいはRAG2の分子量を、レーンMは分子量マーカーを示す。

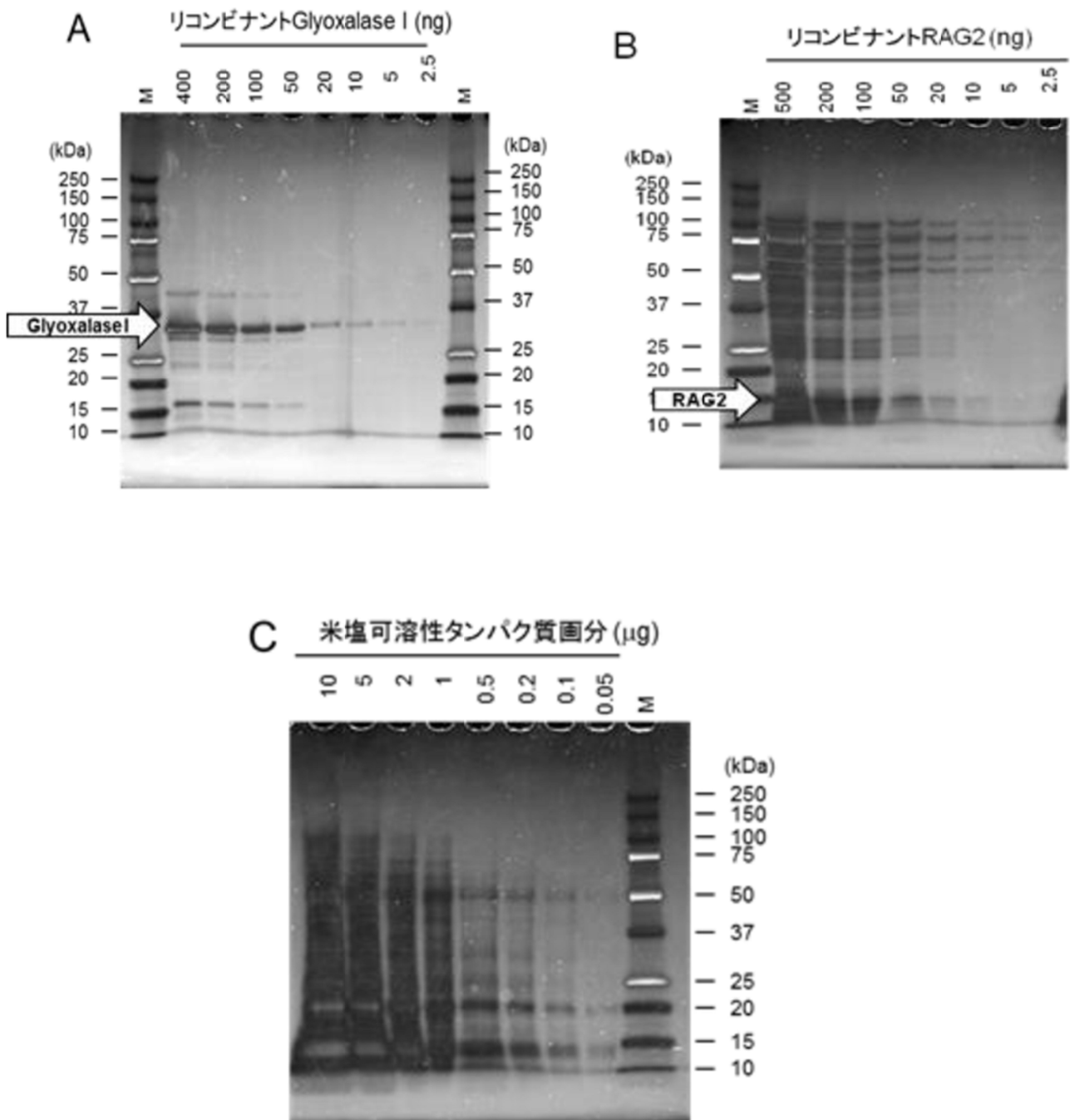


Fig. 11 SDS-PAGE後のSYPRO Ruby染色像。

A: リコンビナントGlyoxalase I、B: リコンビナントRAG2、C: 米塩可溶性タンパク質画分。  
 矢印は推定されるGlyoxalase IあるいはRAG2の分子量を、レーンMは分子量マーカを示す。

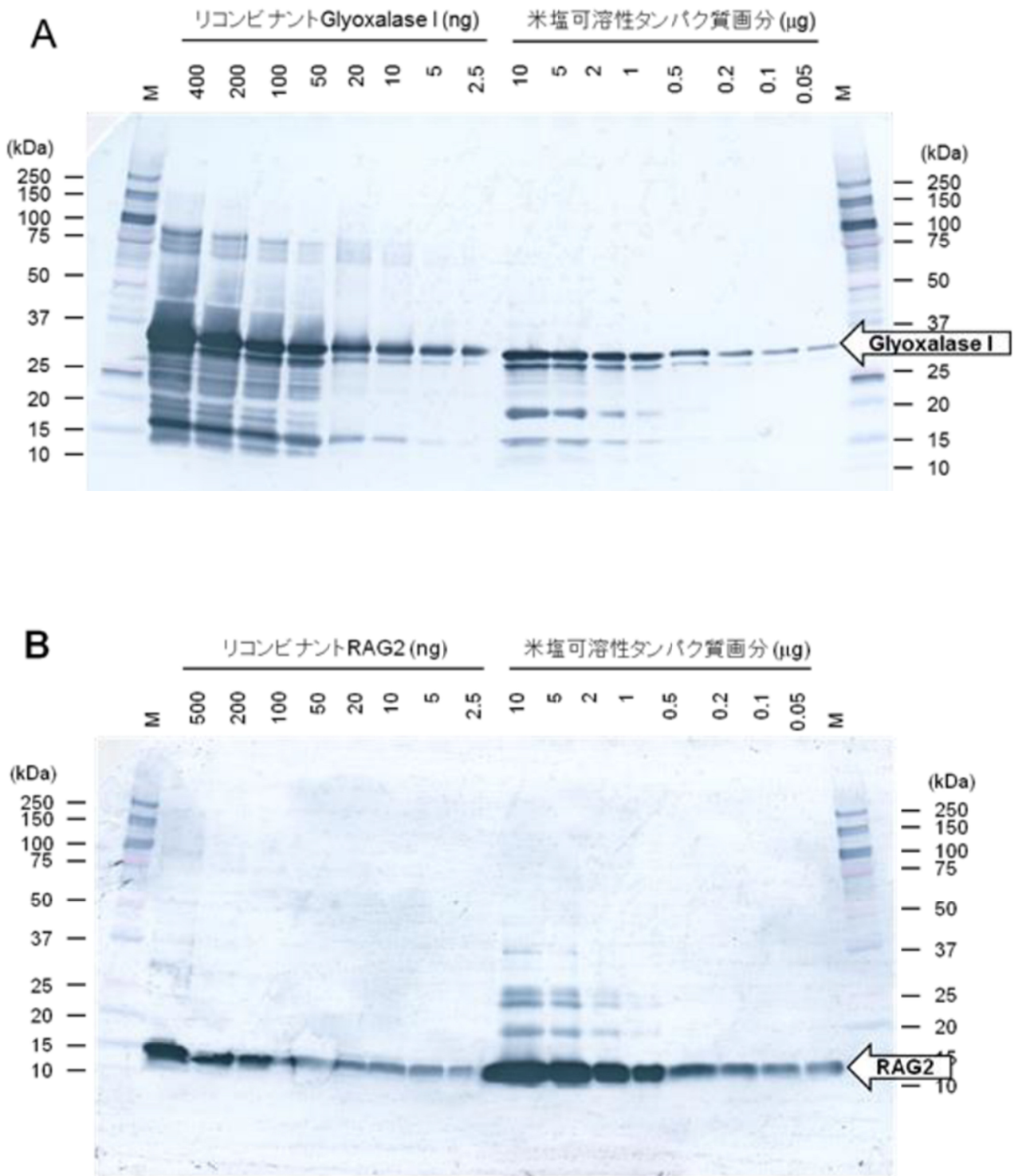


Fig. 12 米アレルギー特異的抗体を用いたウエスタンブロットによるGlyoxalase IおよびRAG2の検出。  
 A: Glyoxalase I, B: RAG2。  
 矢印は推定されるGlyoxalase IあるいはRAG2の分子量を、レーンMは分子量マーカーを示す。

